

図書館の未来を考えるオンラインミーティング 開催結果概要

第3回

01 開催概要

「(仮称)中央図書館基本構想」の策定に向け、今後の豊中市立図書館及び(仮称)中央図書館のあるべき姿について話し合っていたため、第3回は「中央図書館を中心としたネットワーク構築」をテーマに10月23日(金)19:00~20:30に開催し、9名の方に参加いただきました。

当日のプログラム

1. 開会・前回ふりかえり	19:00~19:05
2. 図書館事業費の推移と施設配置方針(案)説明・質疑	19:05~19:20
3. グループ分け・トーク時ルール説明	19:20~19:25
4. トピック1 (グループセッション) 中央図書館以外には、どこに、何があればよい?	19:25~20:05
5. 休憩	20:05~20:10
6. トピック2 (グループセッション) 中央図書館を中心としたネットワークでの地域での関わり方は?	20:10~20:25
7. 閉会	20:25~20:30
—フリートーク(※希望者のみ)—	20:30~21:00

また、参加者間同士でより活発に意見交換をしていただくため、終了後には希望者によるフリートークの時間を30分程度設け、ミーティング内で話さなかったことも含めて自由にお話しいただきました。

02 意見等概要

(1) 図書館事業費の推移と施設再編方針(案)について

トピック1・2に関して議論していただく際の参考として、事務局から図書館事業費の推移と施設再編方針(案)について説明をしたうえで、ご質問などをお受けしました。参加者からの質疑と、事務局による回答の概要は以下のとおりです。

Q and A

図書館事業費のうち人件費・図書購入費・消耗品的資料費を除く構成は?

図書館ホームページ掲載の『豊中市の図書館活動(統計・資料編)』にも記載のあるとおり、その他の消耗品費や委託費などが含まれる。次回改めて資料を提供したい。

人件費が他市より高いのはなぜか?業務効率化により施設数削減は不要では?

他市ではカウンター対応等に係る費用が委託費として計上されている可能性がある。豊中市の場合は施設数が多いため、カウンター数の多さが人件費に表れている面もある。

(仮称)中央図書館整備の予算は確保済みか?多層階建物とする予定か?

予算要求は、今後候補地などが具体化した段階で進めていく。フロア構成についても敷地の規模や法的要件、サービス等を踏まえて今後検討していくこととなる。



(2) トピック 1：中央図書館以外には、どこに、何があればよい？

市立図書館の現状や事務局が示した再編方針（案）も踏まえたうえで、利便性確保に向けて中央図書館以外の施設に残すべき機能や他自治体と連携を強化すべき面などについて、2つのグループに分かれて話し合っていました。各グループで挙げられた意見の概要は、以下のとおりです。

地域館・分館・サービスポイントの機能について **グループ 1**

地域館・分館の機能について



特色化を図ることについて

- 地域の状況に応じて必要な資料を提供できるとよい（※具体例：南部地域など学校以外の教育関連施設（塾等）が多くない地域では自習用資料を提供するなど）
- 地域の特性などを踏まえて特色ある資料・情報やサービスを提供することと併せて、そのことを周辺地域だけでなく市内全域に周知できるとよい
- 各地域館に特色を持たせる際には、市として仕掛けたい方向性と地域住民のニーズと双方を考慮するとよいのではないか
- 子どものことを考える場合には、ある程度の施設数が必要となる。居場所と感じられたり、学習や PC の操作ができたりする空間を提供することも必要ではないか。地域館・分館の一部では、併設施設との連携や施設規模の拡大などを通じて、それらの導入を図れるとよい

資料・情報の収集・提供について

- 資料を借りる際には書架から選ぶのではなく予約して受け取る人にとっては、利便性向上に資する機能の向上が重要と感じる
- 中央図書館と密に連携することで、中央図書館のみが所蔵している資料を予約申込から半日程度で提供できる仕組みなどを構築できるとよい
- 中央図書館が開催するイベントなどに関する情報も利用者へ積極的に発信していくとよいのではないか
- 市民の活動や地域の知をデジタルで記録・蓄積する機能は中央図書館が一括で担うことで、地域館の機能は軽減できるのではないか
- 公民館機能などさまざまな機能を併設し、情報発信の面でそれらとコラボレーションすることで、地域の情報発信センター・生涯学習センターとしての機能を担うことが必要ではないか
- 市立図書館が市内公共施設のなかでもデジタル化社会への対応に特に熱心である点を活かし、利用者による ICT 活用を支援することを期待する（※具体例：ICT に詳しい人材の配置や Zoom 講座の開催など）

サービスポイント等の機能について

- サービスポイントの設置にあたって自動貸出機・返却機を導入する場合には、返却処理の漏れやタイムラグがなく、汚破損の確認などもできる仕組みをきちんと構築することが課題ではないか
- 駅・スーパー・コンビニなど、買い物のついでに資料を受け取ることができる場所や、人が多く集まる場所にあるとよい
- 千里図書館に設置された返却ポストは、開館中にも利用できるとよい

地域館・
分館の
機能について

位置づけ・役割について

- 地域のニーズを踏まえたうえで、地域に関連する資料・情報や身近な学びの場(講座など)、災害時等の緊急対応の場を提供する役割を担うべき
- 本や人と出会う場、文化に触れる場としての機能はなくすべきでない

サービス等について

- レファレンスのための資料を中央図書館に集約するのであれば、そこをつなぐための専門的な知見のある人材を配置すべき
- レファレンスに対応する人材の配置が難しい時間帯や施設(※サービスポイント含む)では、Zoomなどを活用して簡易的に相談できる仕組みがあれば、業務効率化が可能ではないか
- インターフォンなどを通じて中央図書館につなぐ仕組みを構築し、デジタル機器の操作に対応可能な人材を最低限配置すればよいのではないか
- サービスの展開にあたっては、高齢者をはじめオンライン化への対応が難しい市民の存在にも配慮すべき

規模・諸室・設備等について

- 実際に本を見て選びたい人のことを考えると、ある程度の規模は必要である
- 書架から資料を選ぶ人のことを考えると、資料数を減らすことはよくないかもしれない
- 本と出会う場を残すため、集会室等はすべて公民館で提供してはどうか
- 駐車場(有料で構わない)が必須であるほか、オムツ替えスペース・授乳室・プリンタもあると便利である。静寂の空間と賑わいの空間とのゾーニングを行ったうえで、最近流行りのミーティングルームなどがあってもよい

サービス
ポイント等の
機能について



- 駅チカ・ナカ、ショッピングモール、公園、子育て支援センター、コンビニ、郵便局など、買い物や子どもを遊ばせたついでに利用できる場所にあるとよい
- 他施設内(子育て支援センター・高齢者施設・ショッピングモール内など)に設置し、その施設に必要な資料も含めて配架するとよい(※分館含む)
- 駅などに小さなカウンターやロッカー、ポスト形式で設置し、コストを抑えられるとよい
- 1畳程度のコンビニの郵便ポスト程度の空間をイメージしている

- 予約サービスやWebOPACの利便性を高めたほうがよい(※具体例:スマホ利用時表示の最適化/著者名の原綴りでの検索など)
- 特定のテーマに関する資料のリストやセットを作成し、所蔵館や貸出状況などが把握できる仕組み(ヴァーチャル図書館)があるとよい

その他

他自治体との連携について挙げられた意見:

グループ1

- 大阪府・他市の図書館で借りた資料を市立図書館で返却できるとよい
- 他市の図書館の資料でもインターネット予約ができるとよい
- 音訳資料の作成・提供などに関しては、他市とも連携して取り組むことができるとよい

グループ2

- 近隣市に負担をかけすぎないためには、大阪府にサポートを要望すべき

(3) トピック2：中央図書館を中心としたネットワークでの地域での関わり方は？

2つ目のトピックとしては、中央図書館整備後の市立図書館の運営に参画いただくための方法や、市立図書館と地域とがより積極的につながるための方法について意見交換をしていただきました。それぞれのグループで挙げられたご意見の概要は以下のとおりです。

グループ1 で挙げられた主な意見

市民参画 について

- 個人だけでなく、NPO やPTAといった団体も含めて地域づくりや図書館づくりについて話し合う場のあり方としては、「しょうない REK」の活動も1つのモデルになると思う

- それぞれの地域におけるシニア層の交流の場などを図書館が中心になって設けるとよい。オンラインで出会った人同士がリアルでもつながることができる場になるとよい

- 市民の知的好奇心を満たすための施設として、中央図書館から市民・地域に向けて様々なイベントを仕掛けるほか、中央図書館職員は各館を巡回して積極的に情報を発信してほしい(※具体例：市立図書館全館からオンラインで参加可能な読み聞かせ／ハロウィン・クリスマス関連資料や各国の絵本の紹介など)

- 市民にとっての利用しやすさを考えると、地域と関わる際に中心となるのは地域館・分館だろう。中央図書館ではすべての市民を対象として、ビブリオバトルや姉妹都市・市外団体と連携したイベントの開催などに取り組めるとよい

地域への 働きかけ について

グループ2 で挙げられた主な意見

地域への 働きかけ について

- 地域と直接的に関わるのは地域館であるべき。中央図書館では、それらの取り組みの内容や結果を整理・分析・研究してバックアップするとよい

- 中央図書館は、他館の模範となるとともに、地域間でサービスに偏りが生じた場合にそれを補う役割を担うべき

- 中央図書館では、現在及びこれからの市民の暮らしや思想、人生、市民活動などに関する資料・情報をさまざまな形式でアーカイブ化していく役割を担うべき

- 市民や地域に関する資料・情報をアーカイブ化する際には、市内の各地域をアピールすることも意識するとよいのではないか

- 各地域の状況を踏まえつつ小中学校や幼稚園を支援することは、中央図書館にとっても重要な機能になるだろう

- 中央図書館は、市内の学校などに対して図書館だよりを作成・配布したり、購入の参考となる図書リストを配布したりすることで、地域とのネットワークを拡大してはどうか

ミーティングはいよいよ次回で最終回を迎えます。最終回では、市立図書館として備えるべき資料・情報のあり方や司書の役割などについて話し合ってください。ぜひ皆さまご参加ください。

次回のご案内

日時： 令和2年11月20日(金)
19:00~20:30

お問い合わせ

豊中市教育委員会事務局読書振興課
TEL : 06-6843-4553 (岡町図書館内)
Email : okamachito@city.toyonaka.osaka.jp